
平成 30 年度 事業報告書

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)



学校法人 日本医科大学

目次

I 学校法人の概要

1	学是と教育理念	1
2	沿革	2 ~ 4
3	法人が設置する教育研究機関、付置施設	5
4	所在地一覧	6 ~ 12
5	法人の組織機構	13 ~ 16
6	役員等一覧	17
7	教職員数一覧	18
8	学生数	19
9	入試状況、国家試験、学位授与	20 ~ 22
10	卒業生の進路	23
11	国際交流活動	24 ~ 25
12	管理運営等	26

II 財務の概要

1	資金収支計算書	27
2	事業活動収支計算書	28 ~ 29
3	貸借対照表	30
4	財産目録	31
5	財務状況の推移	32 ~ 34

III 平成30年度 事業報告 [別冊]

1	法人本部
2	日本医科大学
3	日本獣医生命科学大学
4	看護専門学校
5	付属病院
6	武蔵小杉病院
7	多摩永山病院
8	千葉北総病院
9	腎クリニック
10	呼吸ケアクリニック
11	健診医療センター
12	ワクチン療法研究施設
13	成田国際空港クリニック
14	先端医学研究所
15	国際交流センター
16	知的財産推進センター
17	ICT推進センター
18	研究統括センター

I 学校法人の概要

1. 学是と教育理念

(1) 日本医科大学

建学の精神 濟生救民

学是 克己殉公

教育理念 愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成

日本医科大学は、1876年に長谷川泰により創設された濟生学舎を前身とし、創立140年を超えるわが国最古の私立医科大学である。本学の源流である濟生学舎は、その建学の精神を「濟生救民」（貧しくて、そのうえ病気で苦しんでいる人々を救うのが、医師の最も大切な道である）とし、その精神は大正7年に学是「克己殉公」（我身を捨てて、広く人々のために尽くす）として掲げられた。その建学の精神は、時代の変遷を経て今なお日本医科大学の学是として、明日の医療を担う学生たちに脈々と受け継がれている。また、教育理念は、建学の精神と学是をさらに明確に表現した「愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成」である。

(2) 日本獣医生命科学大学

学是 敬讓相和

到達目標 愛と科学の聖業を培う

教育理念 愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成

日本獣医生命科学大学の教育理念は「愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成」であり、学是は「敬讓相和」である。その意味は、謙讓と協調、愛と倫理を育む科学の創生を説いた箴言である。本学の目的は、生命科学新時代・環境科学新時代・食品科学新時代の開拓者として、総合的な《生命科学の知と技》を練磨するとともに、《人間愛・動物愛》の豊かで清冽な人材の育成にある。

(3) 日本医科大学看護専門学校

学是 克己殉公

教育理念 私心を捨て社会に貢献する。

己に打ち克ち、公のために生きる。

日本医科大学の建学の精神を基盤に、自律性、主体性、創造性に富む豊かな人間性を培う。共同存在を基盤とした関係を築きながら、倫理的視点と科学的根拠に基づく思考力、判断力、責任ある行動がとれる看護師を育成する。

2. 沿革

【略年譜】

明治9年	(1876)	済生学舎を設立（実質的な日本医科大学の前身）
明治14年	(1881)	私立獣医学校を設立（日本獣医生命科学大学の前身）
明治22年	(1887)	私立獣医学校を閉校
明治25年	(1892)	私立東京獣医学校として再興（旧私立獣医学校）
明治35年	(1902)	私立東京獣医学校を閉校
明治36年	(1903)	済生学舎を廃止
明治37年	(1904)	私立日本医学校を設立
		私立日本医学校を神田区淡路町へ移転
明治43年	(1910)	私立日本医学校が私立東京医学校を買収
		日本医科大学付属駒込医院を開院（現在の日本医科大学付属病院）
明治44年	(1911)	私立日本獣医学校を開校（旧私立獣医学校及び旧私立東京獣医学校の系統を継ぐ）
		根津真泉病院の寄贈を受け付属医院とする
明治45年	(1912)	私立日本医学校を本郷区本駒込千駄木町へ移転
		私立日本医学専門学校の設立が認可され、私立日本医学校を私立日本医学専門学校に改称
		日本医学専門学校付属本郷医院を開院
大正8年	(1919)	私立日本医学専門学校を日本医学専門学校に改称
大正9年	(1920)	日本医学専門学校予科を設置
大正10年	(1921)	日本医学専門学校付属医院看護婦講習科を開設
大正11年	(1922)	日本医学専門学校付属医院看護婦講習科が看護婦規則により講習所として指定される。
大正13年	(1924)	日本医学専門学校付属飯田町医院開院
大正15年	(1926)	財団法人日本医学専門学校を財団法人日本医科大学に改称
		大学令により日本医科大学を設置、予科を併設
		日本医科大学付属飯田町医院を日本医科大学付属第一医院に改称
		日本医科大学付属本郷医院を日本医科大学付属第二医院に改称
		日本医学専門学校を日本医科大学専門部に改称
昭和6年	(1931)	日本医科大学専門部を廃止
昭和7年	(1932)	日本医科大学予科を神奈川県橘樹郡中原町に移転
昭和10年	(1935)	日本医科大学付属第一医院に看護婦講習所を設置
昭和12年	(1937)	日本医科大学付属丸子病院開院
昭和13年	(1938)	財団法人日本高等獣医学校の設立が許可され、設置
昭和14年	(1939)	私立日本獣医学校を廃校
		日本医科大学付属第二医院に看護婦講習所設置
昭和15年	(1940)	日本医科大学付属丸子病院を日本医科大学付属第三医院に改称
昭和19年	(1944)	専門学校令により日本医科大学付属医学専門部を設置

昭和20年	(1945)	日本高等獣医学校を日本獣医畜産専門学校に改称
昭和21年	(1946)	日本医科大学予科校舎を千葉県市川市国府台へ移転
昭和22年	(1947)	日本獣医畜産専門学校に獣医科及び畜産科を設置
昭和24年	(1949)	新制大学設置の許可を得、日本獣医畜産専門学校を日本獣医畜産大学に改称、獣医学科及び畜産学科を設置
昭和25年	(1950)	日本医科大学付属医学専門部を廃止
昭和26年	(1951)	財団法人日本医科大学を学校法人日本医科大学に改組
		財団法人日本獣医畜産大学を学校法人日本獣医畜産大学に改組
		学制改正により日本医科大学予科を廃止
昭和27年	(1952)	学校法人日本医科大学と学校法人日本獣医畜産大学が合併し、学校法人日本医科大学となる。
昭和28年	(1953)	日本獣医畜産大学に教職課程を設置
		日本医科大学付属准看護学院を設置
昭和29年	(1954)	日本医科大学付属第二病院を日本医科大学付属病院に改称
		日本医科大学付属第三病院を日本医科大学付属第二病院に改称
昭和30年	(1955)	日本医科大学医学進学課程を設置
昭和35年	(1960)	日本医科大学大学院医学研究科（博士課程）を設置
昭和37年	(1962)	日本獣医畜産大学大学院獣医学研究科（博士課程・修士課程）を設置
昭和38年	(1963)	日本医科大学付属病院を日本医科大学付属病院に改称
		日本医科大学付属第一病院を日本医科大学付属第一病院に改称
		日本医科大学付属第二病院を日本医科大学付属第二病院に改称
昭和39年	(1964)	日本医科大学付属高等看護学院を設置
昭和40年	(1965)	日本医科大学付属高等看護学院に別科を併設
昭和41年	(1966)	日本衛生技術専門学院を設置
昭和42年	(1967)	日本獣医畜産大学に畜産食品工学科を設置
昭和43年	(1968)	社団法人老人病研究会付置老人病研究所を本法人に移管し、日本医科大学老人病研究所を設置
昭和45年	(1970)	日本医科大学医学進学課程、専門課程を一本化し、6年制一貫教育を実施
昭和47年	(1972)	日本医科大学付属第二高等看護学院を設置
		日本医科大学ワクチン療法研究施設を設置
昭和48年	(1973)	日本医科大学付属准看護学院を廃止
昭和50年	(1975)	日本医科大学専門課程を廃止
		日本獣医畜産大学付属小野田牧場を開設
昭和51年	(1976)	日本医科大学付属第二高等看護学院を専修学校として設置、日本医科大学丸子看護専門学校に改称
		日本医科大学付属高等看護学院を上野桜木校地へ移転
昭和52年	(1977)	日本医科大学付属多摩永山病院を開院
昭和53年	(1978)	日本医科大学付属高等看護学院を専修学校として設置、日本医科大学看護専門学校（第一看護科・第二看護科）に改称
		日本衛生技術専門学院を日本医学技術専門学校に改称
昭和57年	(1982)	日本獣医畜産大学獣医学科修士積み上げ方式による6年制を開始
昭和59年	(1984)	日本獣医畜産大学獣医学科、学校教育法一部改正により6年制一貫教育に移行

昭和61年	(1986)	学校法人日本医科大学国際交流センターを設置
昭和62年	(1987)	日本医科大学看護専門学校第二看護科廃止、同第一看護科を看護科に改称
平成4年	(1992)	日本医科大学新東京国際空港クリニックを開院
		日本獣医畜産大学富士アニマルファームを開設
平成5年	(1993)	日本医科大学千葉看護専門学校を開校
		日本獣医畜産大学富士セミナーハウスを開設
平成6年	(1994)	日本医科大学付属千葉北総病院を開院
平成7年	(1995)	日本獣医畜産大学小野田牧場を閉鎖
平成9年	(1997)	日本医科大学腎クリニックを開院
		日本医科大学付属第一病院を閉院
平成11年	(1999)	日本医科大学看護専門学校を廃止
平成12年	(2000)	日本医科大学丸子看護専門学校を廃止
		日本獣医畜産大学獣医畜産学部の畜産食品工学科を食品科学科に改称
平成13年	(2001)	日本獣医畜産大学獣医畜産学部の畜産学科を動物科学科に改称
		学校法人日本医科大学知的財産・ベンチャー育成 (TLO) センター設置
平成15年	(2003)	日本獣医畜産大学獣医畜産学部を獣医学部に改称し、応用生命科学部を設置 (獣医学部獣医学科、応用生命科学部動物科学科、応用生命科学部食品科学科に改組)
		日本獣医畜産大学動物保健学別科を設置
		日本獣医畜産大学獣医学部付属動物医療センターを開院
平成16年	(2004)	日本医科大学新東京国際空港クリニックを日本医科大学成田国際空港クリニックに改称
		日本医科大学呼吸ケアクリニックを開院
平成17年	(2005)	日本医学技術専門学校を廃止
		日本獣医畜産大学大学院獣医学研究科を日本獣医畜産大学大学院獣医生命科学研究科に改称
		日本獣医畜産大学獣医学部に獣医保健看護学科を設置
平成18年	(2006)	日本医科大学千葉看護専門学校を日本医科大学看護専門学校に改称
		日本医科大学健診医療センター開院
		日本獣医畜産大学動物保健学別科を廃止
平成19年	(2007)	日本獣医畜産大学を日本獣医生命科学大学に改称
		日本医科大学付属第二病院を日本医科大学武蔵小杉病院に改称
		日本医科大学付属多摩永山病院を日本医科大学多摩永山病院に改称
平成20年	(2008)	日本医科大学付属千葉北総病院を日本医科大学千葉北総病院に改称
		日本獣医生命科学大学大学院獣医生命科学研究科応用科学専攻に博士前期課程 (2年制) 及び博士後期課程 (3年制) を設置
平成21年	(2009)	日本獣医生命科学大学大学院生命科学研究科に獣医保健看護学専攻修士課程を新たに設置
平成23年	(2011)	日本獣医生命科学大学大学院生命科学研究科に獣医保健看護学専攻博士前期課程 (2年制) 及び博士後期課程 (3年制) を設置
平成26年	(2014)	日本医科大学新丸子校舎を閉舎し、武蔵境校舎への移設により日本医科大学と日本獣医生命科学大学の合同教育施設利用開始
		学校法人日本医科大学ICT推進センターを設置
平成28年	(2016)	学校法人日本医科大学研究統括センターを設置

3. 法人が設置する教育研究機関・付置施設

平成31年3月31日現在

(1) 日本医科大学 学長 弦間 昭彦

大学院医学研究科	医学研究科長	鈴木 秀典
医学部	医学部長	伊藤 保彦
付属病院	院長	汲田 伸一郎
腎クリニック	所長	平間 章郎
呼吸ケアクリニック	所長	木田 厚瑞
健診医療センター	センター長	福嶋 善光
ワクチン療法研究施設	所長	廣田 薫
武蔵小杉病院	院長	田島 廣之
多摩永山病院	院長	中井 章人
千葉北総病院	院長	清野 精彦
成田国際空港クリニック	所長	赤沼 雅彦
図書館	図書館長	高井 信朗
先端医学研究所	所長	南 史朗

(2) 日本獣医生命科学大学 学長 阿久澤 良造

大学院獣医生命科学研究科	研究科長	田崎 弘之
獣医学部	獣医学部長	河上 栄一
応用生命科学部	応用生命科学部長	藤澤 倫彦
付属図書館	図書館長	新井 敏郎
付属ワイルドライフ・ミュージアム	館長	羽山 伸一
付属動物医療センター	院長	藤田 道郎
付属牧場(富士アニマルファーム)	牧場長	吉村 格
生命科学共同研究施設	施設長	袴田 陽二

(3) 日本医科大学看護専門学校 校長 内藤 明子

(4) 付置施設

国際交流センター	センター長	新田 隆
知的財産推進センター	センター長	桑名 正隆
I C T推進センター	センター長	林 宏光
研究統括センター	センター長	弦間 昭彦

4. 所在地一覧

(1) 日本医科大学

日本医科大学 医学部棟



〒113-8602 東京都文京区向丘2-20-10

☎ 03 (3822) 2131 [大代表]

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/college/>

最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前、
本駒込 [東京メトロ南北線] 白山 [地下鉄都営三田線]

日本医科大学 大学院棟



〒113-0031 東京都文京区根津1-25-16

☎ 03 (3822) 2131 [大代表]

最寄駅: 根津 [東京メトロ千代田線] 東大前 [東京メトロ南北線]

日本医科大学 武蔵境校舎



〒180-8602 東京都武蔵野市境南町1-7-1

☎ 0422 (34) 3394

最寄駅: 武蔵境 [JR中央線] [西武多摩川線]

日本医科大学 図書館



〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5

☎ 03 (3822) 2131

最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前、
本駒込 [東京メトロ南北線] 白山 [都営三田線]

付属病院



〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5

☎ 03 (3822) 2131

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/hosp/>

最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前、
本駒込 [東京メトロ南北線] 白山 [都営三田線]

腎クリニック



〒113-1601 東京都文京区本駒込1-7-15アサカビル

☎ 03 (3822) 2131

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/jin/>

最寄駅: 本駒込 [東京メトロ南北線] 白山 [都営地下鉄三田線]

呼吸ケアクリニック



〒102-0074 東京都千代田区九段南4-7-15 JPR市ヶ谷ビル8階
☎ 03 (5276) 2325
ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/rcc/>
最寄駅: 市ヶ谷[JR中央・総武線][東京メトロ有楽町線、南北線][都営新宿線]

健診医療センター



〒113-0022 東京都文京区千駄木1-12-15
☎ 03 (5814) 6651
ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/pet/>
最寄駅: 千駄木、根津[東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込[東京メトロ南北線] 白山[地下鉄都営三田線]

ワクチン療法研究施設



〒113-8706 東京都文京区千駄木1-1-5
☎ 03 (3822) 2131 [大代表]
ホームページアドレス <http://vaccine.nms.ac.jp/>
最寄駅: 千駄木、根津[東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込[東京メトロ南北線] 白山[地下鉄都営三田線]

武蔵小杉病院



〒211-8533 神奈川県川崎市中原区小杉町1-396
☎ 044 (733) 5181
ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/kosugi-h/>
最寄駅: 武蔵小杉、新丸子[東急東横線、目黒線] 武蔵小杉[JR南武線、横須賀線]

多摩永山病院



〒206-8512 東京都多摩市永山1-7-1
☎ 042 (371) 2111
ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/tama-h/>
最寄駅: 小田急永山[小田急多摩線] 京王永山[京王相模原線]

千葉北総病院



〒270-1694 千葉県印西市鎌苅1715
☎ 0476 (99) 1111
ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/hokusou-h/>
最寄駅: 印旛日本医大[北総線] (印旛日本医大駅およびJR成田線木下駅より無料シャトルバス運行)

成田国際空港クリニック



〒282-0004 千葉県成田市古込字古込1-1
☎ 0476 (34) 6119
ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/narita/>
最寄駅: 空港第2ビル [JR線] [成田スカイアクセス線] [京成本線]

先端医学研究所



〒211-8533 神奈川県川崎市中原区小杉町1-396
☎ 044 (733) 1821
ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/ig/>
最寄駅: 武蔵小杉、新丸子 [東急東横線、目黒線] 武蔵小杉 [JR南武線、横須賀線]

(2) 日本獣医生命科学大学

日本獣医生命科学大学



〒180-8602 東京都武蔵野市境南町1-7-1
☎ 0422 (31) 4151
ホームページアドレス <http://www.nvlu.ac.jp/>
最寄駅: 武蔵境 [JR中央線] [西武多摩川線]

A・B棟



(同左)

D棟



(同上)

E棟



(同上)

第二校舎



〒180-0022 東京都武蔵野市境2-27-5
☎ 0422 (51)6121

C棟(付属動物医療センター)



〒180-8602 東京都武蔵野市境南町1-7-1
☎ 0422 (31) 4151

富士アニマルファーム



〒401-0338 山梨県南都留郡富士河口湖町富士ヶ嶺799
☎ 0555 (89) 3086

富士セミナーハウス



(同左)

(3) 日本医科大学看護専門学校

看護専門学校



〒270-1613 千葉県印西市鎌苅1955
☎ 0476 (99) 1331

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/nursing-s/>

最寄駅:印旛日本医大[北総線] (印旛日本医大駅およびJR成田線木下駅より無料シャトルバス運行)

看護学生寮 ドミトリーMOMO



(同左)

(4) 付置施設

国際交流センター 弥生1号館



〒113-0032 東京都文京区弥生1-4-10 (弥生1号館内)
☎ 03 (5802) 1946
ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/iec/>
最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込 [東京メトロ南北線]

知的財産推進センター



〒113-0031 東京都文京区根津1-25-16
☎ 03 (5814) 6637
ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/tlo/>
最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込 [東京メトロ南北線]

ICT推進センター



〒113-0031 東京都文京区根津1-25-16
☎ 03 (5814) 6932
ホームページアドレス <http://www.nms.ac.jp/ict/>
最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前 [東京メトロ南北線]

研究統括センター



〒113-0032 東京都文京区弥生1-4-10 (弥生1号館内)
最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込 [東京メトロ南北線]

(5) その他施設等

日医大マリンハウス



〒248-0021 神奈川県鎌倉市坂の下31-14
☎ 0467 (23) 1563
最寄駅: 極楽寺 [江ノ島電鉄線]

牧心セミナーハウス



〒401-0338 山梨県南都留郡富士河口湖町富士ヶ嶺831
☎ 0555 (89) 2126

法人本部



〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5

☎03(3822)2131

最寄駅:千駄木、根津[東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込[東京メトロ南北線] 白山[地下鉄都営三田線]

弥生2号館

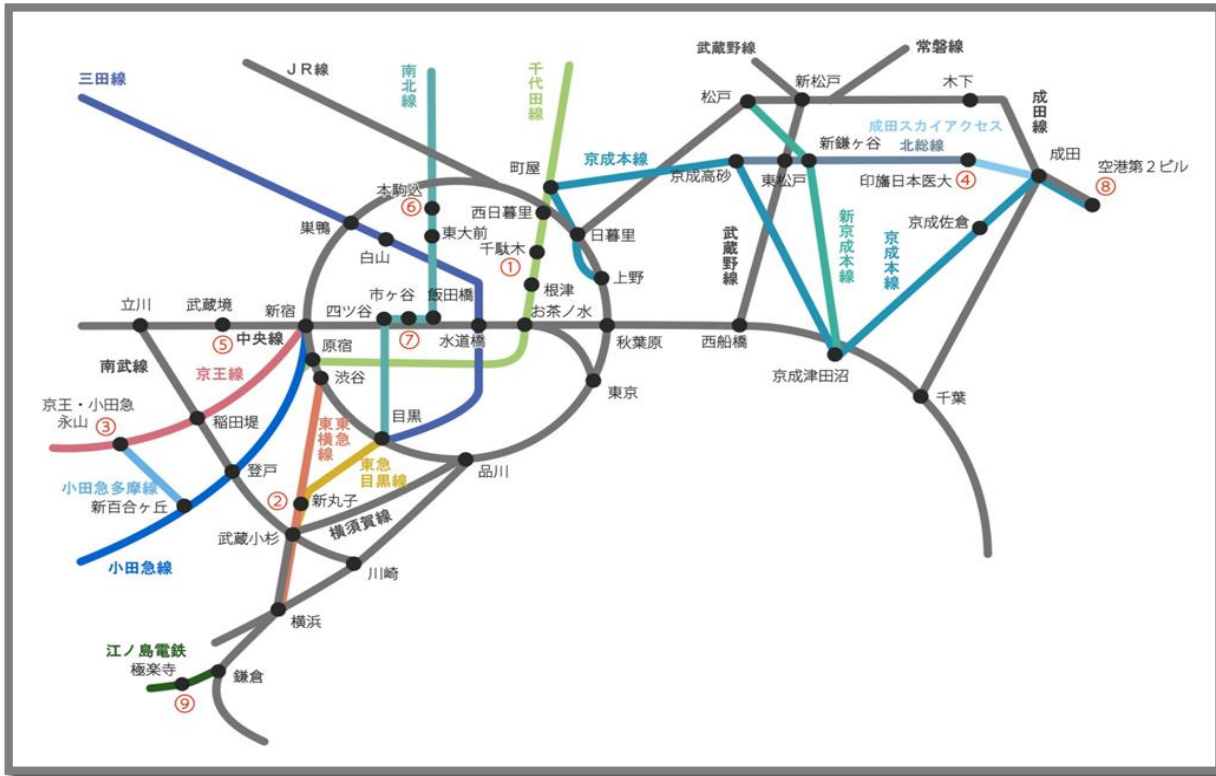


〒113-0032 東京都文京区弥生1-4-14

☎03(3822)2131

最寄駅:千駄木、根津[東京メトロ千代田線] 東大前[東京メトロ南北線]

(6) アクセスマップ

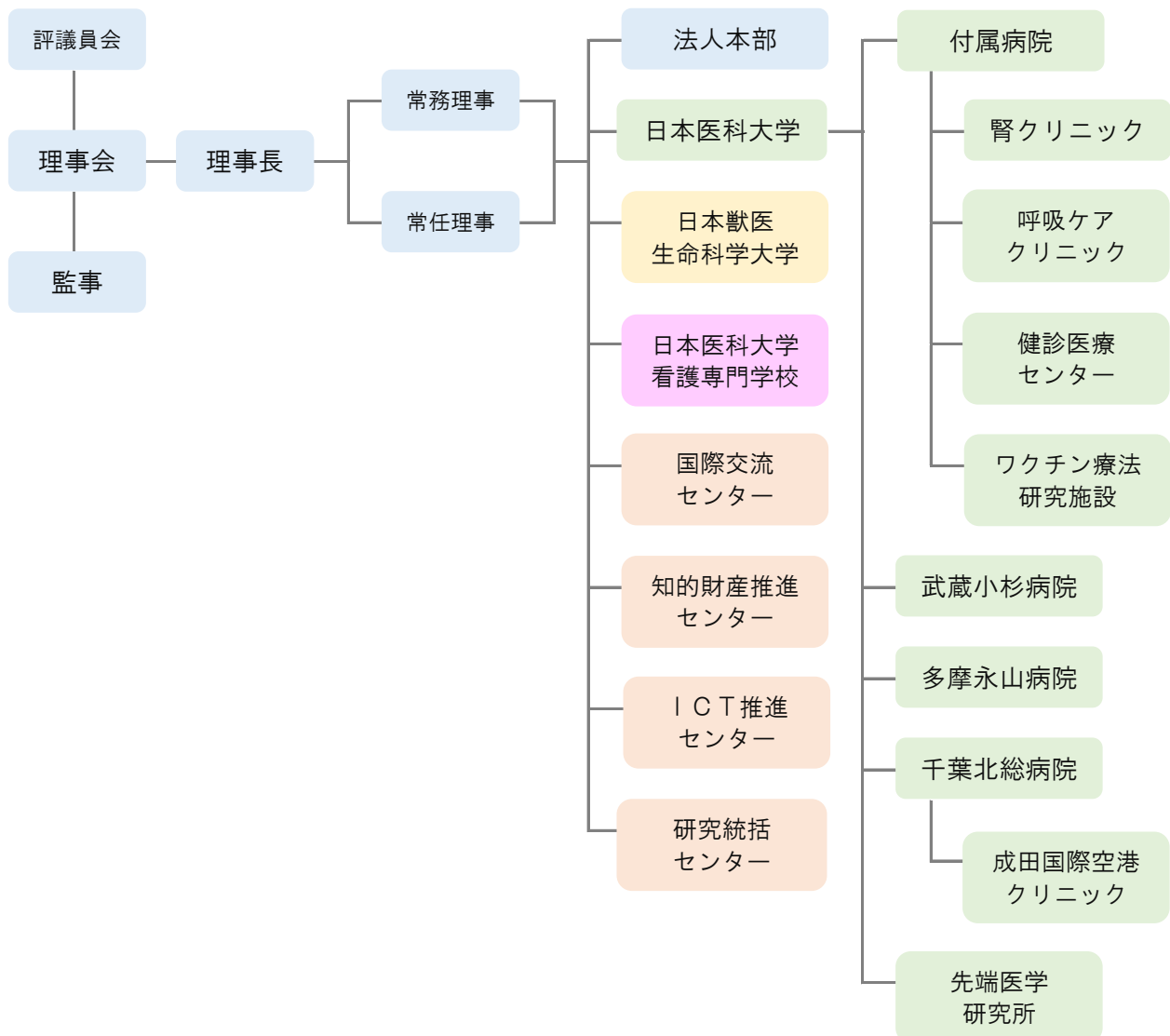


- ① 学校法人日本医科大学 日本医科大学(千駄木校舎) 附属病院
健診医療センター ワクチン療法研究施設 国際交流センター
知的財産推進センター ICT推進センター 研究統括センター
- ② 武蔵小杉病院 先端医学研究所
- ③ 多摩永山病院
- ④ 千葉北総病院 看護専門学校
- ⑤ 日本獣医生命科学大学 動物医療センター
日本医科大学(武蔵境校舎)
- ⑥ 腎クリニック
- ⑦ 呼吸ケアクリニック
- ⑧ 成田国際空港クリニック
- ⑨ 日医大マリンハウス

5. 法人の組織機構

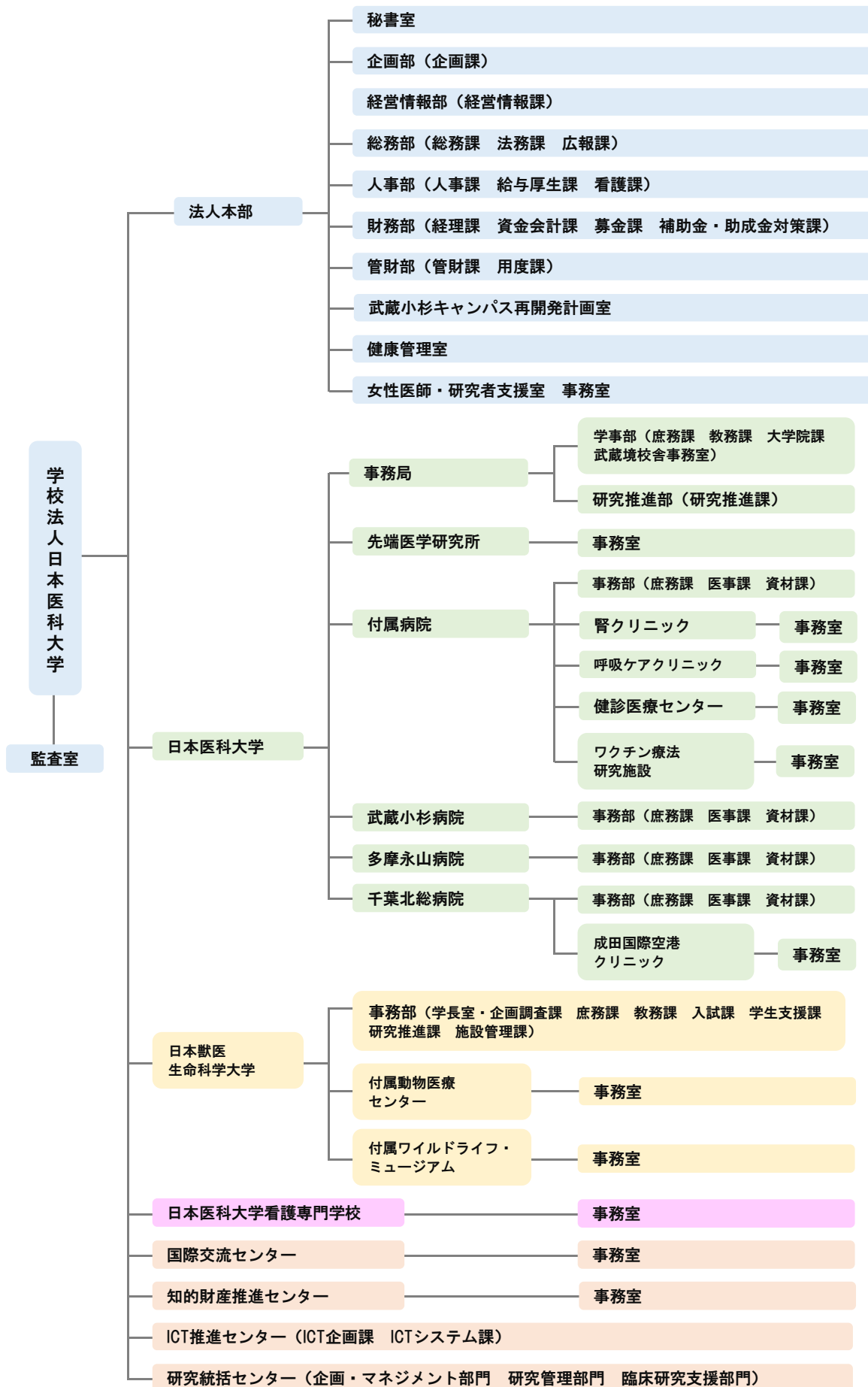
(1) 法人組織

平成31年3月31日現在



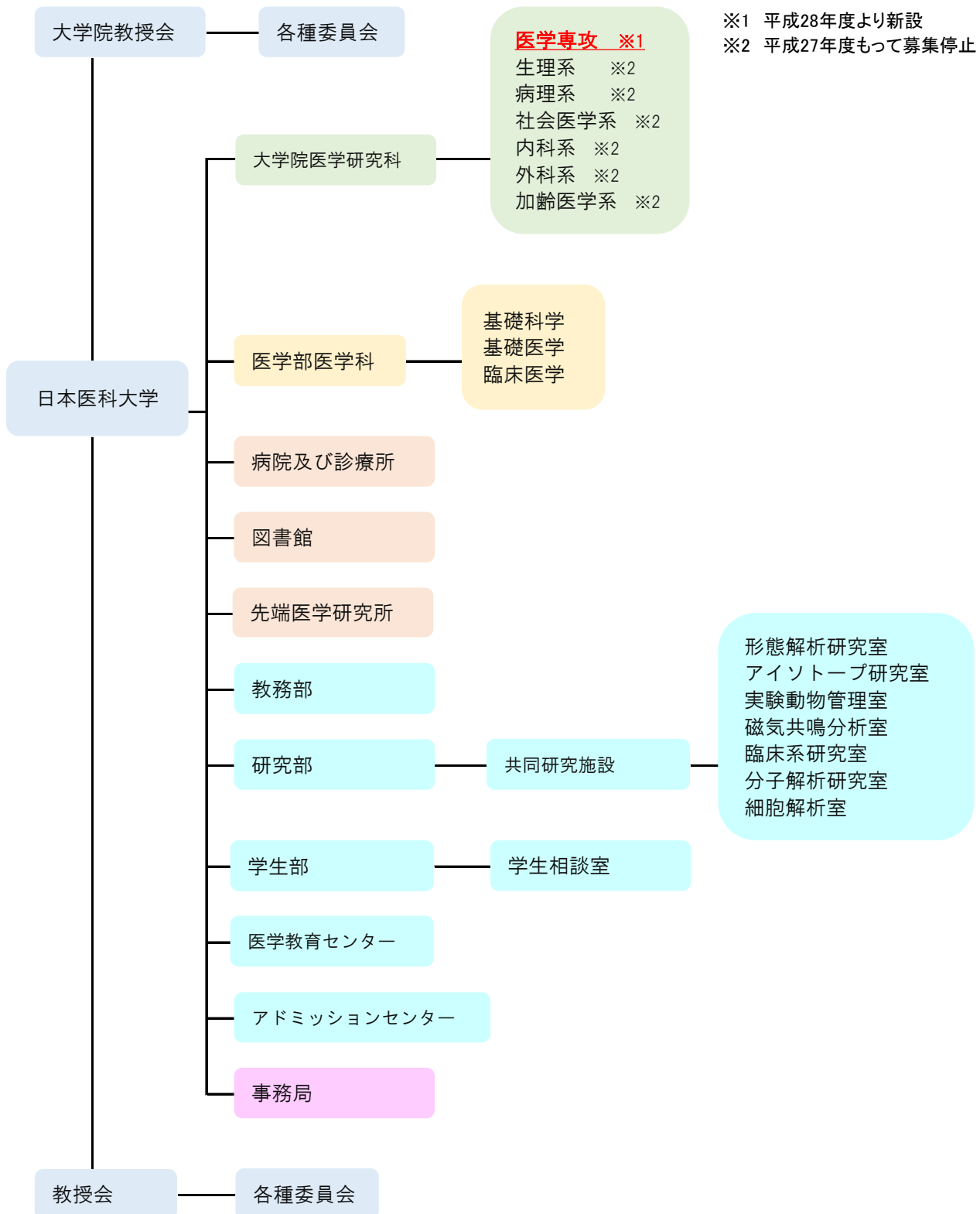
(2) 事務組織

平成31年3月31日現在



(3) 日本医科大学

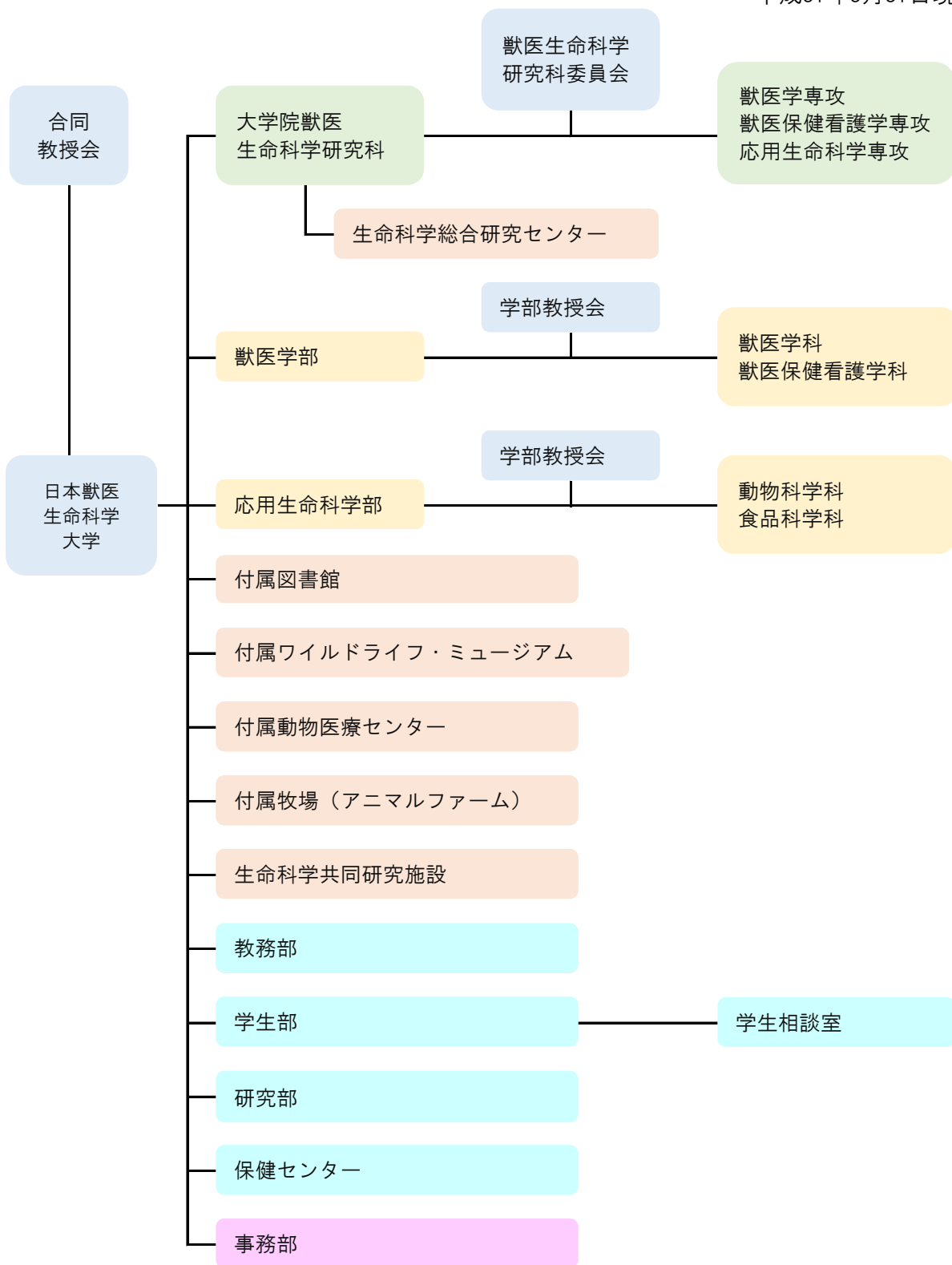
平成31年3月31日現在



※1 平成28年度より新設
※2 平成27年度をもって募集停止

(4) 日本獣医生命科学大学

平成31年3月31日現在



6. 役員等一覧

平成31年3月31日現在

(1) 理事・監事

役職名	氏名	常勤・非常勤	選任区分
理事長	坂本 篤裕	常 勤	学識経験者
常務理事	山下 精彦		評議員
	弦間 昭彦		日本医科大学学長
常任理事	鈴木 秀典		学識経験者
理事	阿久澤 良造	非 常 勤	日本獣医生命科学大学学長
	伊藤 雅治		評議員
	猪口 正孝		
	鎌田 隆		
	汲田 伸一郎	常 勤	学識経験者
	清水 一政	非 常 勤	
	黒川 顯		
	庄山 悦彦		
	清野 精彦	常 勤	
	中井 章人		
監事	大喜多 啓光	非 常 勤	
	柏原 一英		
	柴 由美子		

区分	定数	現員	
理事	14	14 (6)	()内は学外理事数
監事	2~3	3 (3)	()内は学外監事数

(2) 評議員

評議員会議長 越野 立夫

区分	定数	現員	選任区分
1号評議員	2	2	二大学の学長
2号評議員	10	10	二大学の研究科長及び学部長、四病院長等
3号評議員	6	6	本法人の職員
4号評議員	10~12	11	本法人が設置する大学の卒業生
5号評議員	8~12	8	学識経験者（本法人の大学卒業生及び本法人の職員を除く）
計	36~42	37	

7. 教職員数一覧

(1) 教員

平成30年5月1日現在

		教授	准教授	講師	助教	専任教員	計
日本医科大学	日本医科大学	20	23	27	41	0	111
	附属病院	41	52	53	246	0	392
	腎クリニック	0	0	0	2	0	2
	呼吸ケアクリニック	0	0	1	2	0	3
	健診医療センター	0	0	1	2	0	3
	ワクチン療法研究施設	0	0	0	1	0	1
	武蔵小杉病院	11	17	17	110	0	155
	多摩永山病院	4	14	10	99	0	127
	千葉北総病院	9	26	12	130	0	177
	成田国際空港クリニック	0	0	0	2	0	2
	先端医学研究所	5	2	3	10	0	20
	小計	90	134	124	645	0	993
日本獣医生命科学大学	獣医学部	27	22	22	17	5	93
	応用生命科学部	17	13	6	3	0	39
	小計	44	35	28	20	5	132
日本医科大学看護専門学校		—	—	—	—	18	18
合計		134	169	152	665	23	1,143

(2) 職員

平成30年5月1日現在

		事務職	看護職	技術職	技能職	計
法人本部		63	0	0	4	67
日本医科大学	日本医科大学	63	0	38	3	104
	附属病院	153	1,180	309	32	1,674
	腎クリニック	1	7	4	0	12
	呼吸ケアクリニック	4	5	3	0	12
	健診医療センター	2	6	7	0	15
	ワクチン療法研究施設	2	0	0	0	2
	武蔵小杉病院	60	556	118	8	742
	多摩永山病院	58	578	108	4	748
	千葉北総病院	91	679	155	5	930
	成田国際空港クリニック	4	7	2	0	13
	先端医学病研究所	2	0	8	0	10
	小計	440	3,018	752	52	4,262
日本獣医生命科学大学	獣医学部	23	0	1	13	37
	応用生命科学部	16	1	0	4	21
	小計	39	1	1	17	58
日本医科大学看護専門学校		5	0	0	0	5
国際交流センター		2	0	0	1	3
知的財産推進センター		3	0	0	0	3
ICT推進センター		7	0	0	0	7
研究統括センター		2	0	0	0	2
合計		561	3,019	753	74	4,407

8. 学生数

平成30年5月1日現在

区 分			定員	現員	充足率	編入学定員	編入学数	
日本医科大学	医学部	医学部1年	121	133	109.9%	-	-	
		医学部2年	118	126	106.8%	-	-	
		医学部3年	116	112	96.6%	-	-	
		医学部4年	114	118	103.5%	-	-	
		医学部5年	114	107	93.9%	-	-	
		医学部6年	114	108	94.7%	-	-	
	医 学 部 合 計		697	704	101.0%	-	-	
	大学院	大学院1年	70	42	60.0%	-	-	
		大学院2年	70	40	57.1%	-	-	
		大学院3年	70	19	27.1%	-	-	
大学院4年		70	64	91.4%	-	-		
大 学 院 合 計		280	165	58.9%	-	-		
日本獣医 生命科学大学	獣医学部	獣医学科1年	80	93	116.3%	-	-	
		獣医学科2年	80	99	123.8%	-	-	
		獣医学科3年	80	92	115.0%	-	-	
		獣医学科4年	80	103	128.8%	-	-	
		獣医学科5年	80	101	126.3%	-	-	
		獣医学科6年	80	78	97.5%	-	-	
		小 計		480	566	117.9%	-	-
		獣医保健看護学科1年	100	101	101.0%	0	0	
		獣医保健看護学科2年	100	123	123.0%	0	0	
		獣医保健看護学科3年	100	98	98.0%	0	0	
		獣医保健看護学科4年	100	100	100.0%	0	0	
		小 計		400	422	105.5%	0	0
	獣 医 学 部 合 計		880	988	112.3%	0	0	
	応用生命 科学部	動物科学科1年	100	102	102.0%	0	0	
		動物科学科2年	100	101	101.0%	0	0	
		動物科学科3年	100	94	94.0%	0	0	
		動物科学科4年	100	95	95.0%	0	0	
		小 計		400	392	98.0%	0	0
		食品科学科1年	90	90	100.0%	0	0	
		食品科学科2年	90	93	103.3%	0	0	
		食品科学科3年	80	87	108.8%	0	0	
		食品科学科4年	80	88	110.0%	0	0	
		小 計		340	358	105.3%	0	0
	応 用 生 命 科 学 部 合 計		740	750	101.4%	0	0	
	学 部 合 計		1,620	1,738	107.3%	0	0	
	大学院	獣医学専攻1年	8	10	125.0%	-	-	
獣医学専攻2年		8	8	100.0%	-	-		
獣医学専攻3年		8	9	112.5%	-	-		
獣医学専攻4年		8	5	62.5%	-	-		
小 計		32	32	100.0%	-	-		
獣医保健看護学前期1年		5	7	140.0%	-	-		
獣医保健看護学前期2年		5	7	140.0%	-	-		
獣医保健看護学後期1年		2	1	50.0%	-	-		
獣医保健看護学後期2年		2	2	100.0%	-	-		
獣医保健看護学後期3年		2	1	50.0%	-	-		
小 計		16	18	112.5%	-	-		
応用生命科学前期1年		7	13	185.7%	-	-		
応用生命科学前期2年		7	7	100.0%	-	-		
応用生命科学後期1年		2	0	0.0%	-	-		
応用生命科学後期2年		2	0	0.0%	-	-		
応用生命科学後期3年		2	1	50.0%	-	-		
小 計		20	21	105.0%	-	-		
大 学 院 合 計		68	71	104.4%	-	-		
日本医科大学 看護専門学校	看護学科	看護学科1年	80	87	108.8%	-	-	
		看護学科2年	80	85	106.3%	-	-	
		看護学科3年	80	76	95.0%	-	-	
		看 護 学 科 合 計	240	248	103.3%	-	-	

9. 入試状況・国家試験・学位授与

(1) 平成31年度入学者入試状況

(単位：人)

学校名	学部・学科		受験種	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
日本医科大学	医学部		一般入試	4,196	3,901	198	121
	大学院	医学研究科	一般入試	49	49	49	48
日本獣医生命科学大学	獣医学部	獣医学科	推薦	54	54	17	80
			特別選抜(社会人)	2	2	0	
			特別選抜(帰国子女)	2	2	0	
			特別選抜(後継者/地域)	10	10	3	
			特別選抜(学士)	12	12	1	
			センター試験(第1回)	504	479	24	
			一般(第1回)	790	685	50	
			一般(第2回)	872	806	52	
		一般(第3回)	336	294	47		
		獣医保健看護学科	推薦 ※指定校推薦含む	63	63	31	100
			特別選抜(社会人)	0	0	0	
			特別選抜(帰国子女)	1	1	0	
			センター試験(第1回)	200	198	48	
			一般(第1回)	135	120	45	
			一般(第2回)	260	252	95	
	一般(第3回)		64	59	11		
	編入学(学士)		0	0	0		
	編入学	0	0	0			
	小計			3,305	3,037	424	180
	応用生命科学部	動物科学科	推薦 ※指定校推薦含む	26	26	24	100
			特別選抜(社会人)	0	0	0	
			特別選抜(帰国子女)	0	0	0	
			センター試験(第1回)	246	245	135	
			センター試験(第2回)	17	17	9	
			一般(第1回)	114	104	86	
			一般(第2回)	256	244	126	
			一般(第3回)	64	55	17	
編入学(学士)			0	0	0		
食品科学科		推薦 ※指定校推薦含む	16	16	16	90	
		特別選抜(社会人)	0	0	0		
		特別選抜(帰国子女)	0	0	0		
		センター試験(第1回)	181	181	100		
		センター試験(第2回)	11	11	6		
		一般(第1回)	55	50	40		
		一般(第2回)	137	134	125		
		一般(第3回)	51	37	31		
		編入学(学士)	0	0	0		
編入学		0	0	0			
小計			1,174	1,120	715	190	
学部合計			4,479	4,157	1,139	370	

学校名	学部・学科	受験種	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
日本獣医 生命科学大学	大学院	獣医学専攻	一般（第一回）	5	5	4	4
			社会人（第一回）	2	2	2	2
			外国人（第一回）	1	1	1	0
			一般（第二回）	0	0	0	0
			社会人（第二回）	0	0	0	0
			外国人（第二回）	0	0	0	0
		獣医保健看護学前期	一般（第一回）	3	3	3	2
			社会人（第一回）	1	1	1	1
			外国人（第一回）	0	0	0	0
			一般（第二回）	1	1	1	1
			社会人（第二回）	0	0	0	0
			外国人（第二回）	0	0	0	0
		獣医保健看護学後期	一般（第一回）	0	0	0	0
			社会人（第一回）	0	0	0	0
			外国人（第一回）	0	0	0	0
			一般（第二回）	0	0	0	0
			社会人（第二回）	2	2	2	2
			外国人（第二回）	0	0	0	0
		応用生命科学前期	一般（第一回）	6	6	6	6
			社会人（第一回）	0	0	0	0
			外国人（第一回）	0	0	0	0
			一般（第二回）	0	0	0	0
			社会人（第二回）	0	0	0	0
			外国人（第二回）	0	0	0	0
		応用生命科学後期	一般（第一回）	1	1	1	1
			社会人（第一回）	0	0	0	0
			外国人（第一回）	0	0	0	0
			一般（第二回）	0	0	0	0
社会人（第二回）	0		0	0	0		
外国人（第二回）	0		0	0	0		
大学院合計			22	22	21	19	
日本医科大学 看護専門学校	看護学科	推薦入試	119	118	47	47	
		社会人入試	26	24	3	3	
		一般入試	157	137	35	30	
		合計	302	279	85	80	

(2) 平成31年(113回) 医師国家試験 [日本医科大学]

	受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)	全国平均(%)
現役	97	92	94.8	92.4
既卒	18	15	83.3	56.8
合計	115	107	93.0	89.0

(3) 平成31年(70回) 獣医師国家試験 [日本獣医生命科学大学]

	受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)	全国平均(%)
現役	75	74	98.7	91.7%
既卒	14	2	14.3	26.0%
合計	89	76	85.4	82.6%

(4) 平成31年(108回) 看護師国家試験 [日本医科大学看護専門学校]

	受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)	全国平均(%)
現役	72	68	94.4	94.7
既卒	4	1	25.0	29.3
合計	76	69	90.8	89.3

(5) 学位授与

学校名	学 部 ・ 学 科	学位授与数	卒業・修業者数
		(人)	(人)
日本医科大学	医 学 部	97	97
日本獣医生命科学大学	獣医学部	獣医学科	78
		獣医保健看護学科	100
	小 計	178	
	応用生命科学部	動物科学科	91
		食品科学科	84
小 計	175		
	学 部 合 計	353	353
日本医科大学看護専門学校	看 護 学 科	—	72

10. 卒業生の進路

(1) 日本医科大学・日本医科大学看護専門学校 (単位：人)

学校名	大学院・学部・学科	進路	人数
日本医科大学	医学部	初期臨床研修 (日本医科大学附属四病院)	42
		初期臨床研修 (その他医療機関)	50
		その他	5
	大学院 医学研究科	大学・研究機関	1
		医療機関	19
		その他	1
日本医科大学 看護専門学校	看護学科	日本医科大学附属四病院	60
		その他医療機関	9
		その他	3

(2) 日本獣医生命科学大学 (単位：人)

大学院・学部	学科・研究科	卒業生	進学	就職 希望者	就職 内定者	内定率	その他
獣医学部	獣医学科	78	6	67	67	100.0%	5
	獣医保健看護学科	100	9	87	87	100.0%	4
応用生命 科学部	動物科学科	91	7	82	82	100.0%	2
	食品科学科	84	4	78	78	100.0%	2
大学院	獣医生命科学研究科	18	2	13	13	100.0%	3

* 主な就職先 (単位：人)

社名	人数
日本全薬工業(株)	4
埼玉県(獣医師)	3
プリマハム(株)	3
シミック(株)	3
(公財)東京動物園協会	3
(株)シノテスト	3
東京都特別区(23区)(衛生監視員)	2

1 1. 国際交流活動

(1) 外国人留学生受入れ状況

(単位：人)

国名	日本医科大学				日本獣医生命科学大学			
	総受入		新規受入		総受入		新規受入	
	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30
中華人民共和国	15	9	11	8	2	1	1	1
台湾	1	2	1	1	6	9	6	9
大韓民国	0	0	0	0	4	5	4	5
タイ王国	14	10	14	9	10	12	10	12
ネパール連邦民主共和国	1	0	0	0	0	0	0	0
ミャンマー連邦	1	1	1	1	0	0	0	0
アメリカ合衆国	0	6	0	6	1	0	1	0
ドイツ連邦共和国	0	1	0	1	0	0	0	0
イギリス	3	0	3	0	0	0	0	0
フランス共和国	1	0	0	0	0	0	0	0
トルコ共和国	2	3	2	3	0	0	0	0
ベトナム社会主義共和国	1	2	1	1	0	0	0	0
アラブ首長国連邦	1	0	0	0	0	0	0	0
バングラデシュ人民共和国	0	0	0	0	2	1	1	0
カンボジア王国	1	0	1	0	0	0	0	0
モンゴル国	0	0	0	0	0	0	0	0
インドネシア共和国	0	0	0	0	0	0	0	0
オーストラリア	5	2	5	2	4	0	4	0
カナダ	0	0	0	0	0	0	0	0
オランダ	1	2	1	1	0	0	0	0
ウクライナ	0	0	0	0	0	0	0	0
カタール	0	0	0	0	0	0	0	0
エジプト	1	1	0	0	0	0	0	0
マレーシア	2	0	2	0	2	1	1	0
ニュージーランド	0	0	0	0	0	0	0	0
インド	1	0	1	0	0	0	0	0
フィリピン	3	4	3	4	0	0	0	0
チリ共和国	0	1	0	1	0	0	0	0
スウェーデン王国	0	2	0	2	0	0	0	0
シンガポール共和国	0	2	0	2	0	0	0	0
合計	54	48	46	42	31	29	28	27

※ 総受入とは前年度から継続して受入れている留学生と新規受入留学生の合計

(2) 協定校からの外国人留学生受入れ状況

(単位：人)

協定校名	日本医科大学		日本獣医生命科学大学	
	H29	H30	H29	H30
西安交通大学	2	1	0	0
チェンマイ大学	5	2	2	2
タマサート大学	6	6	0	0
ジョージワシントン大学	0	0	0	0
ハワイ大学	0	2	0	0
浙江警察学院	2	2	0	0
哈尔滨医科大学	3	2	0	0
中国医科大学	3	1	0	0
南カリフォルニア大学	0	1	0	0
クイーンズランド大学	0	0	4	0
マッセイ大学	0	0	0	0
中興大学	0	0	5	6
全南大学	0	0	4	4
カセサート大学	0	0	4	3
コンケン大学	0	0	2	6
合 計	21	17	21	21

(3) 短期留学状況

(単位：人)

国 名	日本医科大学		日本獣医生命科学大学	
	H29	H30	H29	H30
ジョージワシントン大学	2	1	0	0
南カリフォルニア大学	3	4	0	0
ハワイ大学	0	1	0	0
チェンマイ大学	10	10	0	0
タマサート大学	9	8	0	0
米国国立衛生研究所 (NIH)	3	3	0	0
浙江警察学院	4	2	0	0
クイーンズランド大学	0	0	92	100
マッセイ大学	0	0	7	6
中興大学	0	0	2	2
全南大学	0	0	2	1
タイ3校 (チェンマイ、カセサート、コンケン)	0	0	0	1
合 計	31	29	103	110

12. 管理運営等

(1) 理事会、評議員会の開催状況

1) 理事会開催状況

()内は書面による出席者数

開催年月日		出席状況			議事内容等
		理事	監事	合計	
平成30年	4月24日	14(2)	3	17	学校法人日本医科大学平成30年度給与改定に関する件等
	5月22日	14(2)	3	17	平成29年度学校法人日本医科大学決算(事業報告を含む)に関する件等
	6月26日	14(1)	3	17	平成30年度上半期期末勤務手当支給に関する件等
	7月24日	14(2)	3	17	次期日本医科大学長の任命に関する件等
	9月25日	14(0)	3	17	法人寄附行為第5条第3項に定める常務理事の選任に関する件等
	10月23日	14(0)	3	17	日本医科大学法医学教室棟(仮称)新築工事に関する件等
	11月27日	14(0)	3	17	平成30年度下半期期末勤務手当支給に関する件等
	12月25日	14(0)	3	17	学校法人日本医科大学決裁規程の一部改正に関する件等
平成31年	1月22日	14(2)	3	17	日本医科大学千葉北総病院アメニティ棟(仮称)新築工事に関する件等
	2月26日	14(2)	3	17	法人寄附行為第5条第3項に定める常務理事の選任に関する件等
	3月26日	14(1)	3	17	2019年度学校法人日本医科大学予算(案)及び事業計画(案)に関する件等

2) 評議員会開催状況

()内は書面による出席者数

開催年月日		出席状況				議事内容等
		評議員	理事	監事	合計	
平成30年	5月22日	37(6)	1	3	41	平成29年度学校法人日本医科大学決算(事業報告を含む)に関する件等
	11月27日	35	1	3	39	学校法人日本医科大学平成30年度上半期収支状況報告等
平成31年	3月26日	37(1)	1	3	41	2019年度学校法人日本医科大学予算(案)及び事業計画(案)に関する件等

Ⅱ 財務の概要

1. 資金収支計算書

(収入の部)

(単位:百万円)

区 分	H29実績	H30実績	対前年度
学生等納付金収入	6,524	6,447	▲ 78
手数料収入	337	369	32
寄付金収入	774	1,025	251
補助金収入	4,459	4,388	▲ 71
資産売却収入	121	0	▲ 121
補助活動収入	57	57	1
付属事業収入	572	658	86
受託事業収入	1,942	1,991	49
医療収入	78,296	81,640	3,344
受取利息・配当金収入	3	3	▲ 1
雑収入	1,919	2,374	455
借入金等収入	10,800	4,500	▲ 6,300
その他の収入	16,735	17,917	1,182
収入の部合計	122,540	121,368	▲ 1,172

(支出の部)

区 分	H29実績	H30実績	対前年度
人件費支出	40,911	41,083	172
教育研究経費支出	40,168	42,315	2,147
(医療経費支出)	(27,402)	(29,237)	(1,835)
管理経費支出	4,826	4,836	10
借入金利息支出	662	626	▲ 36
借入金返済支出	15,690	9,658	▲ 6,032
施設関係支出	4,611	3,533	▲ 1,079
設備関係支出	4,066	3,348	▲ 718
資産運用支出	0	0	0
予備費支出	0	0	0
その他の支出	12,863	16,434	3,571
支出の部合計	123,797	121,833	▲ 1,964

2-1. 事業活動収支計算書(対予算)

(単位：百万円)

区 分	平成30年度		
	予算 ①	決算 ②	差異 ②-①
学生生徒等納付金	6,511	6,447	▲65
手数料	329	369	40
寄付金	700	567	▲133
補助金	4,174	4,236	62
補助活動収入	60	57	▲2
付属事業収入	745	658	▲87
受託事業収入	1,555	1,991	436
医療収入	81,249	81,640	391
雑収入	1,505	2,366	862
収入計	96,828	98,331	1,503
人件費	42,033	41,446	▲587
教育研究経費	47,284	47,995	711
(医療経費)	(27,703)	(29,080)	1,378
管理経費	5,860	5,019	▲841
徴収不能引当金組入額等	14	112	0
支出計	95,190	94,573	▲618
教育活動収支差額	1,638	3,758	2,121
受取利息・配当金(収入)	3	3	0
借入金等利息(支出)	602	626	24
教育活動外収支差額	▲600	▲623	▲24
經常収支差額	1,038	3,135	2,097
特別収入計	336	731	396
特別支出計	21	508	487
特別収支差額	315	223	▲91
予備費	135	0	▲135
基本金組入前当年度収支差額	1,218	3,358	2,140

※ 特別収入計：資産売却差額、施設設備寄付金、施設設備補助金、現物寄付、過年度修正 等

※ 特別支出計：資産処分差額、過年度修正 等

2-2. 事業活動収支計算書（対前年）

（単位：百万円）

区 分	平成29年度	平成30年度	対前年度
学生生徒等納付金	6,524	6,447	▲78
手数料	337	369	32
寄付金	709	567	▲142
補助金	4,051	4,236	185
補助活動収入	57	57	1
付属事業収入	572	658	86
受託事業収入	1,942	1,991	49
医療収入	78,296	81,640	3,344
雑収入	1,906	2,366	461
収入計	94,394	98,331	3,937
人件費	41,139	41,446	307
教育研究経費	18,360	18,915	555
教) 人材派遣委託費	(681)	(674)	(▲4)
教) 管理業務委託費	(1,560)	(1,563)	
教) 減価償却額	(5,607)	(5,834)	(227)
医療経費	27,351	29,080	1,729
管理経費	4,735	5,019	284
管) 人材派遣委託費	(516)	(487)	(▲29)
管) 管理業務委託費	(1,032)	(1,032)	
管) 減価償却額	(186)	(185)	(▲2)
徴収不能引当金組入額等	158	112	0
支出計	91,742	94,573	2,830
教育活動収支差額	2,652	3,758	1,107
受取利息・配当金（収入）	3	3	▲1
借入金等利息（支出）	662	626	▲36
教育活動外収支差額	▲659	▲623	35
經常収支差額	1,993	3,135	1,142
特別収入計	596	731	135
特別支出計	937	508	▲429
特別収支差額	▲341	223	564
予備費	0	0	0
基本金組入前当年度収支差額	1,652	3,358	1,706

※ 特別収入計：資産売却差額、施設設備寄付金、施設設備補助金、現物寄付、過年度修正 等

※ 特別支出計：資産処分差額、過年度修正 等

3. 貸借対照表

平成31年3月31日
(単位：百万円)

資産の部				負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	104,525	103,745	780	固定負債	62,042	67,603	▲5,561
有形固定資産	103,160	102,318	842	長期借入金	42,569	48,509	▲5,940
施設関係	86,850	86,991	▲141	長期未払金	1,320	1,304	16
土地	21,604	21,383	222	退職給与引当金	18,153	17,790	363
建物	63,746	64,141	▲395	流動負債	27,949	25,106	2,843
構築物	1,501	1,468	33	短期借入金	10,275	9,493	782
設備関係	14,808	14,972	▲164	短期未払金	13,930	13,337	594
教育研究用機器備品	11,746	11,643	103	前受金	2,757	1,331	1,426
管理用機器備品	181	213	▲31	その他	987	945	42
図書	2,855	3,096	▲241				
車両	26	21	5				
建設仮勘定	1,501	355	1,147				
				負債の部合計	89,991	92,709	▲2,718
				純資産の部			
				科目	本年度末	前年度末	増減
特定資産	58	58	0	基本金	185,670	177,445	8,225
第3号基本金引当特定資産	58	58	0	第1号基本金	179,634	171,408	8,225
その他の固定資産	1,307	1,369	▲62	第2号基本金	0	0	0
				第3号基本金	58	58	0
流動資産	25,154	25,293	▲140	第4号基本金	5,979	5,979	0
現金預金	8,836	9,300	▲465	科目	本年度末	前年度末	増減
未収入金	15,311	15,141	170	繰越収支差額	▲145,983	▲141,116	▲4,867
その他	1,007	852	155	翌年度繰越収支差額	▲145,983	▲141,116	▲4,867
				純資産の部合計	39,687	36,329	3,358
資産の部合計	129,678	129,038	641	負債及び純資産の部合計	129,678	129,038	641

< 純資産構成比率 (旧：自己資金構成比率) >

純資産

負債 + 純資産

区分	H26	H27	H28	H29	H30
純資産額	36,817	34,129	34,677	36,329	39,687
純資産構成比率	28.6%	26.3%	27.1%	28.2%	30.6%

4. 財産目録

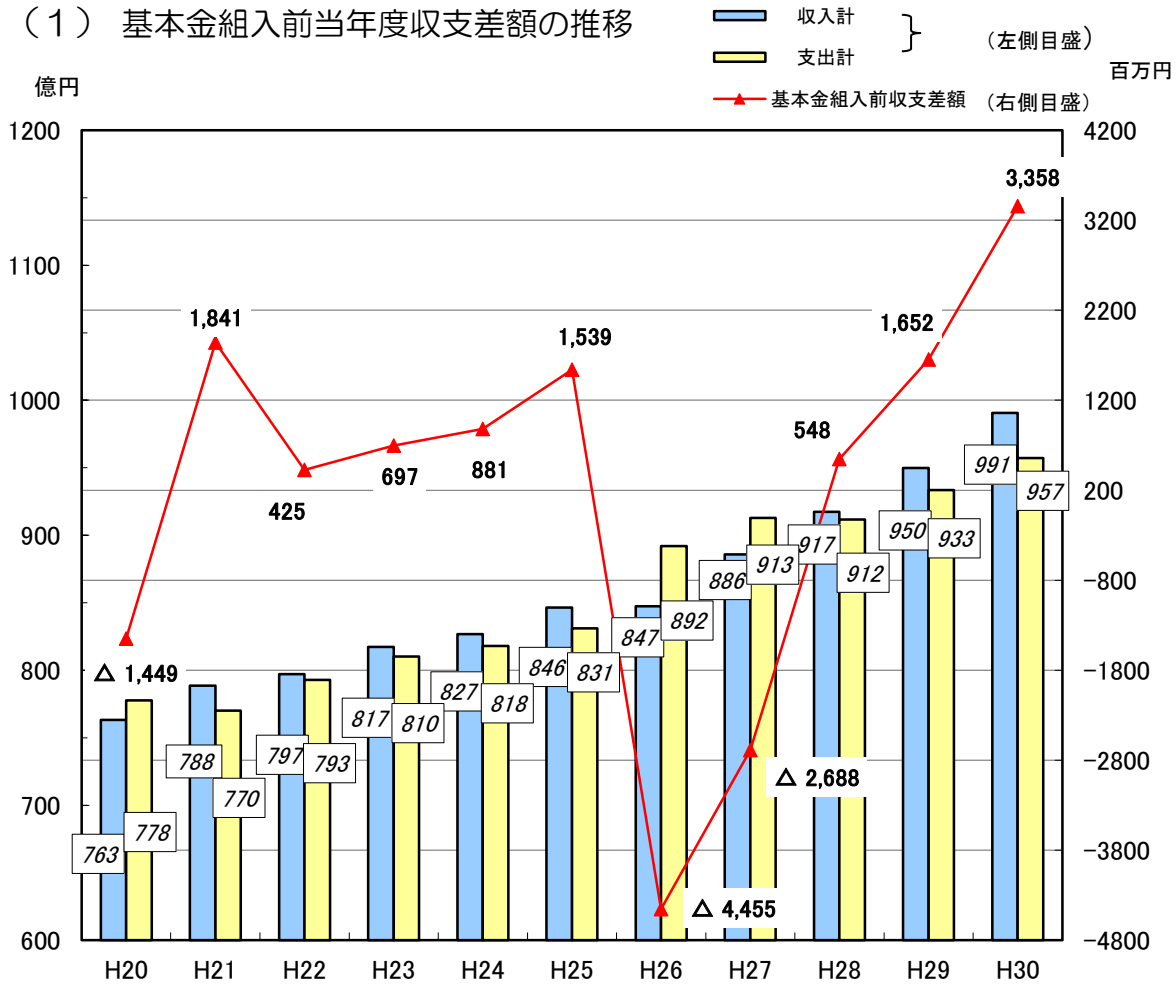
平成30年度 財産目録

I 資産総額	129,678,498,409円
内 基本財産	103,160,334,325円
運用財産	26,518,164,084円
II 負債総額	89,991,251,639円
III 正味財産	39,687,246,770円

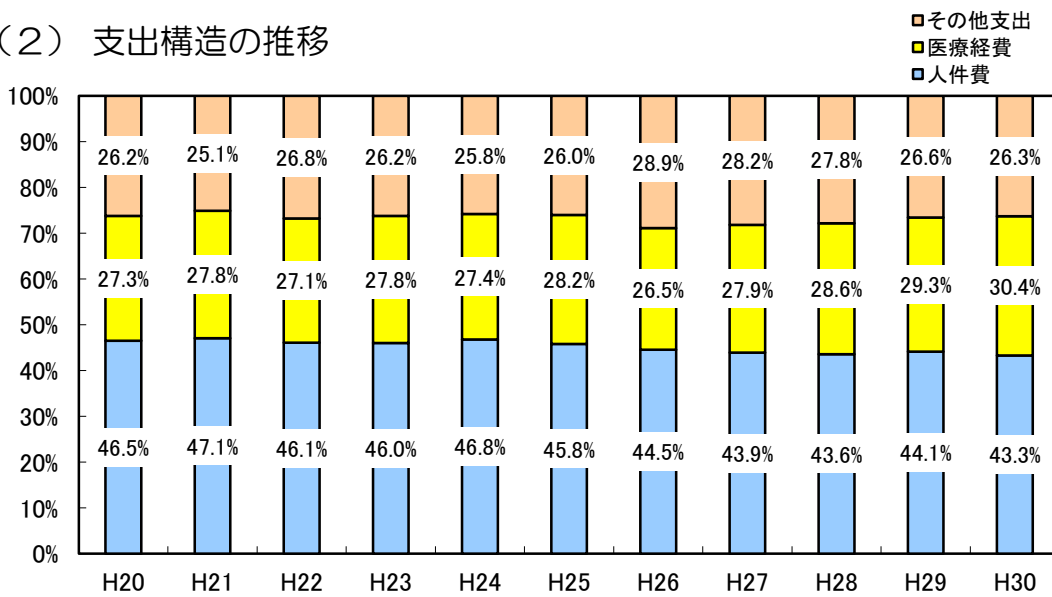
区 分		金 額
資産額		
1 基本財産		103,160,334,325 円
土地	992,776.95 m ²	21,604,142,359 円
建物	303,811.76 m ²	63,745,711,226 円
構築物		1,500,591,333 円
教育研究用機器備品	20,858 点	11,746,179,486 円
管理用機器備品	1,742 点	181,317,935 円
図書	289,055 冊	2,855,481,286 円
その他		1,526,910,700 円
2 運用財産		26,518,164,084 円
現金預金		8,835,726,510 円
その他		17,682,437,574 円
資 産 総 額		129,678,498,409 円
負債額		
1 固定負債		62,042,314,575 円
長期借入金		42,569,184,000 円
その他		19,473,130,575 円
2 流動負債		27,948,937,064 円
短期借入金		10,275,012,000 円
その他		17,673,925,064 円
負 債 総 額		89,991,251,639 円
正味財産（資産総額 - 負債総額）		39,687,246,770 円

5. 財務状況の推移

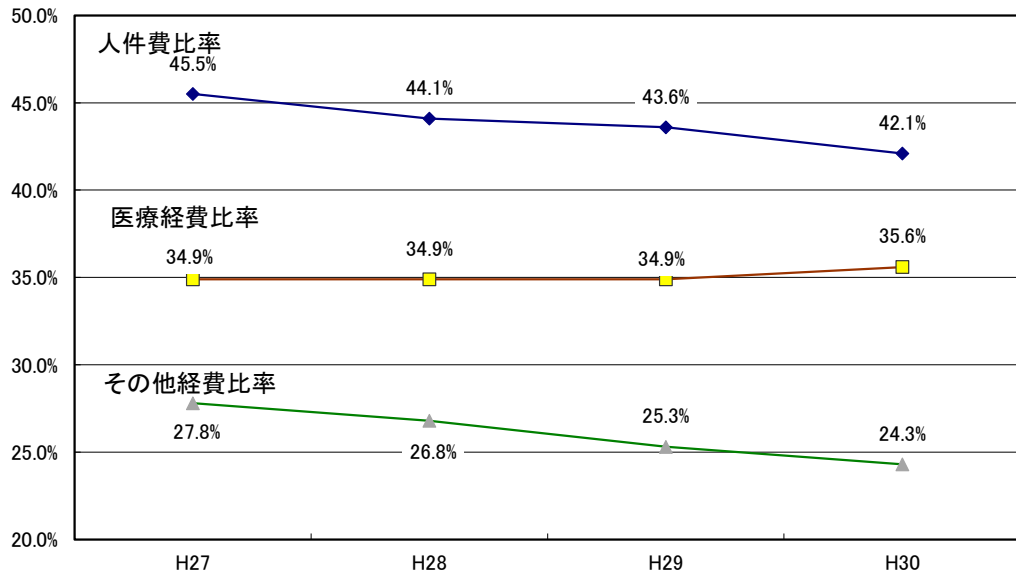
(1) 基本金組入前当年度収支差額の推移



(2) 支出構造の推移

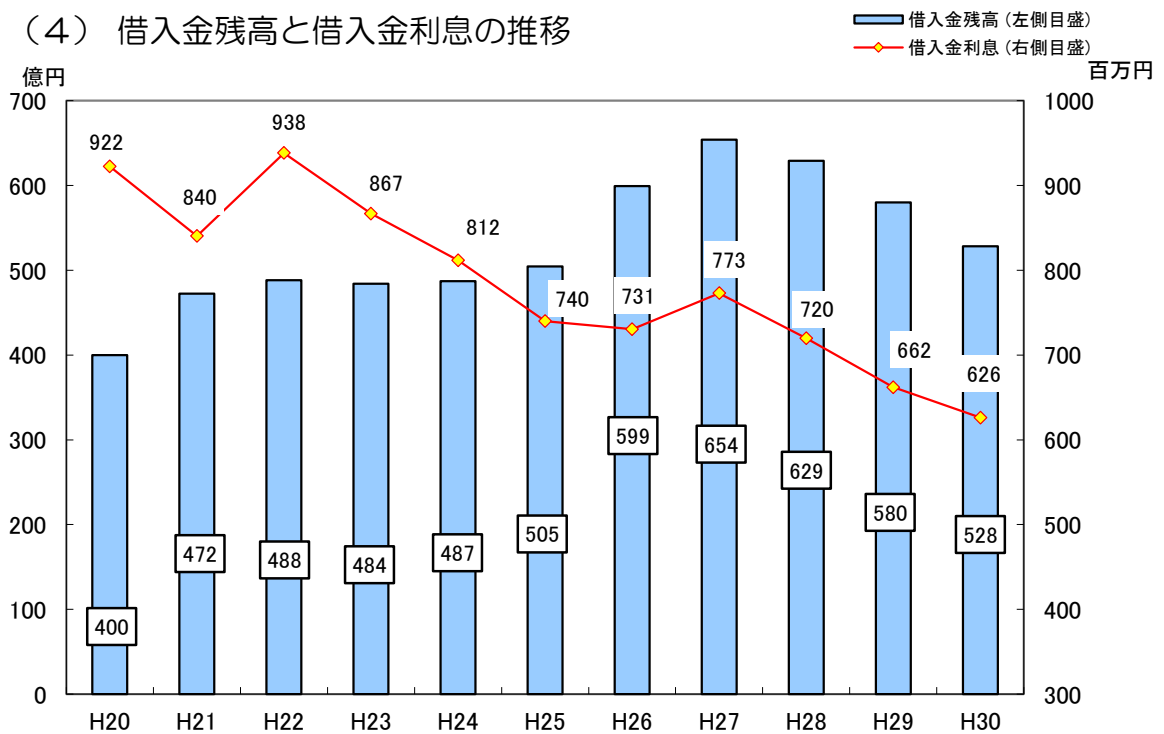


(3) 主要経費比率の推移

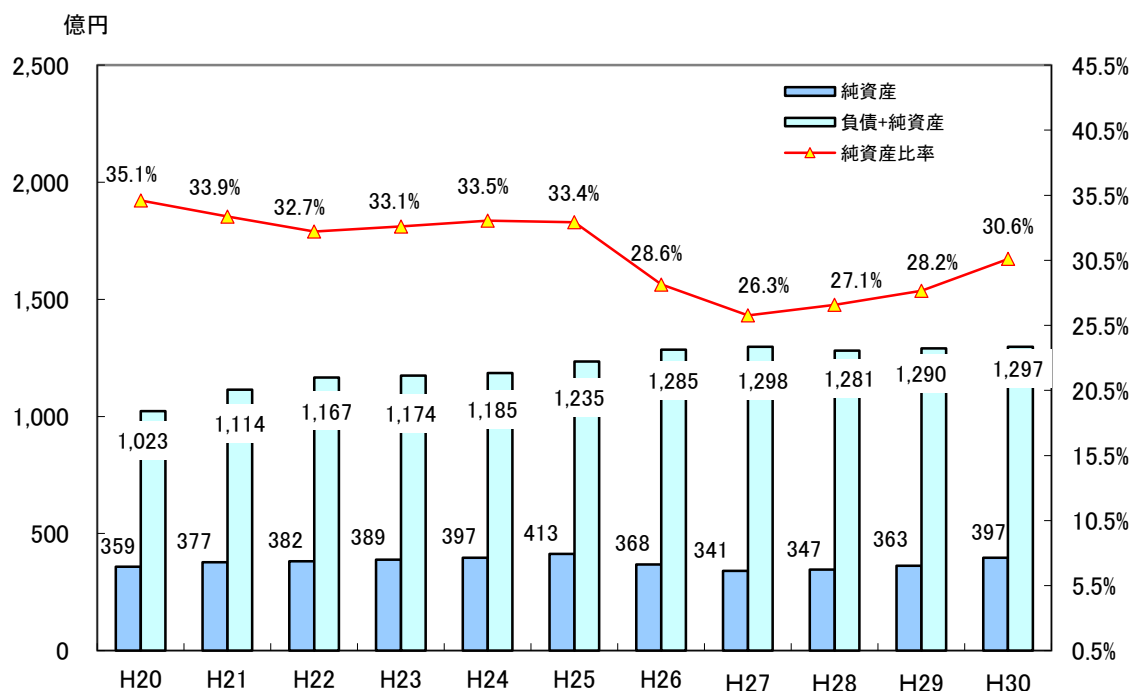


人件費比率 = 人件費 ÷ 経常収入
 医療経費比率 = 医療経費 ÷ 医療収入
 その他経費比率 = その他経費 ÷ 経常収入

(4) 借入金残高と借入金利の推移



(5) 純資産構成比率の推移



* 自己資金構成比率は純資産構成比率へ名称変更

【財務状況の推移(まとめ)】

- ・基本金組入前事業活動収支差額は、33.6億円の収入超過となり3期連続での黒字となった。前年度対比では17億円の増加、予算対比でも21.4億円上回った。
- ・収入面について、医療収入は大幅な増加となり合計で816億円と予算を4億円上回った。前年度対比では33.4億円の増加で、増加率は4.3%であった。補助金収入は44億円と前年度並みとなり、受託事業収入は20億円と予算を4億円上回った。また、特別収入の施設設備寄付金は5億円となり予算を3億円上回った。事業活動収入の合計は991億円と予算を19億円上回った。
- ・支出面については、人件費は414億円となり前年度より3億円増加したが医療経費を除く教育研究経費と管理経費の合計では予算対比マイナス15億円と大幅な節減となった。医療経費は高額薬品の院内処方の増加により予算を14億円上回ったが、医療経費率は35.6%と前年度対比0.7%の増加に留めた。特別支出では資産処分差額として図書の償却や有価証券の評価替えて3.5億円を計上した。その結果、事業活動支出の合計は957億円と予算に対し2億円の減少となった。
- ・資金面では、キャッシュフローの改善と設備・施設投資の抑制により、年度末借入金残高は528億円と前年度より52億円減少した。

1. 法人本部

重点事項	取り組み内容
1 法人全体の財務収支改善	「Ⅱ 財務の概要」参照
2 中長期計画の策定	平成 31 年 3 月に「学校法人日本医科大学 中長期計画」を策定した。
3 千駄木地区 アクションプラン 21	令和 3 年にグランドオープンの予定。 (1) 2.5 期整備実施 新病院への移転・引越の終了に伴い、平成 29 年 11 月から東館の改修工事が実施され、平成 30 年 12 月に改修が完了した。 (2) 既存棟解体手順・外構工事の具体計画策定 B・C 棟および 3・9 号館の解体準備工事も工期どおりに推移している。
4 武蔵小杉キャンパス再開 プロジェクト	平成 30 年 5 月に川崎市から都市計画法に基づく開発許可が下りたことに伴い、平成 31 年 3 月から新病院の建設が着工。 着工に先立ち、再開における移設あるいは運用方法の策定など、現場における計画策定業務が大幅に増えることが予想されたため、平成 30 年 9 月に「武蔵小杉キャンパス再開計画室」を設置し、確実に実行フェーズに移行できるよう体制を構築した。
5 多摩永山キャンパス再開 準備の開始	平成 30 年 5 月に開発候補地を東永山小学校跡地から永山駅周辺に変更するよう要望書を提出した。
6 印旛校地グラウンド整備	武蔵小杉キャンパス再開プロジェクトの進捗により、新丸子グラウンドが利用停止となったため、代替施設として印旛校地グラウンドを整備した。
7 医療系・健康科学系の学部学 科新設に向けた準備	(1) 教育施設に設置する大学院、大学、学部、学科を検討するにあたり、「学部学科等設置計画室」を設置した。 (2) 武蔵小杉地区、武蔵境地区、千葉北総地区等々を中心に検証を進める。 (3) 今後は教育施設の規模、設置する地区、学部学科等を大局的な視点で検証を進める。
8 女性医師・研究者の活躍に 向けた取り組み	平成 31 年度からは「しあわせキャリア支援センター」に名称を変更して、性別を女性だけに限定せず、男性にも、また、医師以外の他の職種にも活動の幅を広げ、有能な医師・獣医師・研究者の就労継続に貢献することを目指すべく、準備を進めている。

2. 日本医科大学

基本方針	
学 是	克己殉公
教育理念	愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成
基本方針	「歴史ある私立医科大学」の特長を基盤に、最新の医学を教育・研究し、広く国際的な視野に立った見識と豊かな人間性を備えた医師、医学研究者の養成に努め、人々の健康の維持・増進、社会に貢献する。
重点事項	取り組み内容
1 多様な入学者選抜試験の実施	前年までの入試区分（前期試験、後期試験）に加え、後期試験に大学入試センター試験（国語）を加えた入試区分を新設した。
2 私立大学研究ブランディング事業申請	学長のリーダーシップの下、全学的に取り組み、WG を立ち上げ、平成 30 年度事業に応募した。
3 大学間連携の拡充	<p>(1) 東京理科大学及び早稲田大学との共同研究プロジェクトを推進した。</p> <p>(2) 12 月 8 日「第 5 回東京理科大学・日本医科大学合同シンポジウム」を開催し、ポスター発表等を行った。</p> <p>(3) 金沢医科大学と臨床実習相互協力の協定を締結した。</p>
4 医学教育体制の充実強化	臨床医学分野に「講師（教育担当）」を置き、教育体制の充実を図った。
5 学生の能動的学習の促進	GPA（Grade Point Average）上位者に対して「成績上位者特別プログラム制度」を設けた。
6 教職員の資質・能力の向上	FD ワークショップではグループ討議等の他、専門教員による講義を実施した。SD 研修会は教員を含めて実施した。
7 「がん専門医療人材養成プラン」推進	<p>コース修了者（平成 30 年度）</p> <p>(1) 腫瘍外科学指導者コース：3 名</p> <p>(2) がん医療開発研究指導者コース（臨床）：2 名</p> <p>(3) 包括的がん治療・ケア医療者指導者コース：1 名</p> <p>(4) 集中的臨床腫瘍学指導者コース：1 名</p>

3. 日本獣医生命科学大学

基本方針	
学 是	敬讓相和
教育理念	愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成
基本方針	「Connect with the Future ～動物と人をつなぎ、都市と地方をつなぐ、獣医・生命科学の情報発信拠点～」達成へのスタート
重点事項	取り組み内容
1 特色ある教育と学生満足度の高い教育の実施	研究倫理教育やe-Learning コンテンツの充実の推進などによる大学院教育の強化や特色ある学部教育としてのアクティブ・ラーニング、学生の自主的な学外活動やインターンシップ、並びに教育改善に向けたFD活動を推進した。
2 先端的・独創的な「食・環境・生命 (One Health)」研究の実行	「日本獣医生命科学大学特色ある研究プロジェクト」を発足し、27件の研究テーマを採択するとともに、第1回ニチジュウシンポジウムを開催した。研究支援体制の強化として、リサーチ・アシスタント制度の導入を決定した。
3 アットホームで豊かな心を培う学修環境の構築	茶話会など学生相談を利用者に分かりやすく周知するとともに、学生相談室主催のワークショップを3回開催し、多様な学生への交流の機会を提供した。その他にキャリア支援体制の強化や学修行動調査(満足度調査)を継続して実施した。
4 産官学、そして社会との連携・協力に基づく取組みの実質化	<p>本学のブランド商品としてオリジナルコンビーフ缶の販売を実施した。また、付属牧場の生乳を使用したチーズ製品の開発に向けた体制を整備した。生涯学習としての公開講座を継続して実施した。</p> <p>総合文化講座 (4回)、武蔵野市寄付講座 (14回)、武蔵野五大学共同教養講座 (4回)、後期、武蔵野五大学共同講演会 (1回)、三鷹ネットワーク大学講座 (5回)</p>
5 多様な個性を活かす、教職員力の向上	教員評価制度の再構築として、2020年4月より全教員に対する評価制度の導入を決定した。また、SDの充実として、ハラスメント研修や男女共同参画推進委員会との合同研修会を開催し、1年間の教職員の受講率100%を達成した。
6 動物医療センター等附属施設の充実と将来構想の検討	第1・第2校地の再開発に関する将来構想「ニチジュウキャンパスマスタープラン」を作成した。また、動物医療センターについては高額機器の更新、研修獣医師の確保を、付属牧場は牛舎の建て替えを実施した。

4. 看護専門学校

基本方針	
学 是	克己殉公
教育理念	私心を捨て社会に貢献する。己に打ち克ち、公のために生きる。
基本方針	日本医科大学の建学の精神を基盤に、豊かな人間性を備え、倫理的視点と科学的根拠に基づいた思考力、判断力、責任ある行動がとれる看護師を育成する。
重点事項	取り組み内容
1 教育内容の充実	授業評価、演習評価、実習評価について学生並びに講師自身による評価を実施。
2 看護師国家試験対策	模擬試験の振り返りや国家試験対策と結びつけた臨地実習での指導を実施。 合格率：94.4%
3 優秀な学生の確保	各種説明会・相談会に参加、入試検定料・学納金は据え置きとした。 志願者数 302 名、受験者数 279 名、合格者数 85 名
4 学生支援	付属四病院へ就職支援、定期健康診断を実施。
5 業務見直し	担任や講師への業務集中を軽減するため、副担任制度の採用、委員会構成メンバーの見直しや増員などを実施。
6 社会貢献	小児糖尿病サマーキャンプ、発達障害者のサマーキャンプに学生が参加。

5. 付属病院

基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営健全化の実現 2. 「つくすこころ」をもって患者に選ばれる質の高い医療サービスの提供 3. 患者及び地域医療機関から信頼される病院づくり
重点事項	取り組み内容
1 東館改修工事による病院経営への影響を最小限に留める	効率的工事を進め、病棟の閉鎖期間を短縮した。
2 効率的な病床運用	病床稼働率 全体：87.5%

6. 武蔵小杉病院

基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者及び家族の意思を尊重し患者中心の医療を提供する 2. 他の医療機関、施設と連携し地域社会に貢献する 3. 安全で良質な医療を提供するため健全な経営基盤を確立する
重点事項	取り組み内容
1 中央手術室の運用強化	偶数週土曜日の手術枠新設により手術件数増加
2 紹介患者の獲得、入院患者数の確保	区外を含む医療機関を訪問し、連携医療機関の登録を増やした。

7. 多摩永山病院

基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 南多摩地域の基幹病院として地域医療に貢献 2. 病病・病診連携を推進し、「多摩地域の患者は多摩地域で治す」を実現すべく、質の高い医療を提供する
重点事項	取り組み内容
1 病院機能評価受審	一般病院 2 3rd.G Ver.2 認定
2 稼働病床の増床	7月より3床、10月より6床増床し受入を強化

8. 千葉北総病院

基本方針	1. 各診療科・看護部・その他部署が診療において組織横断的協力体制を築く 2. 印旛医療圏がん診療連携拠点病院に指定され、がん診療実績の向上を図るための諸施策を実施する 3. 内閣府より JH に推奨され、訪日外国人・渡航受診者・在日外国人の診療実績を集積する
重点事項	取り組み内容
1 ドクターヘリを最大限活用した高度急性期医療の展開	早期の医療介入によって救命の可能性を高める「攻めの医療」を実践
2 がん診療連携拠点病院指定に伴う診療実績の向上	紹介率、逆紹介率を向上させクリティカルパスを推進 がん化学療法（外来）の診療実績向上
3 JH 推奨に伴う新規患者の受入	外国人患者対応窓口による広報活動や問合せ対応を実施し、受入外国人患者増加
4 救命救急センター集中治療室改修工事	工事完了し 8 月より稼働

9. 腎クリニック

基本方針	1. 付属病院、他医療機関からの紹介患者獲得 2. 保存期から外来診療を行い、透析導入 3. 人工腎臓以外の血液浄化療法受入
重点事項	取り組み内容
1 透析患者数の維持と新規透析患者の受入	付属病院での啓蒙活動、他医療機関等への周知による患者受入を行った。
2 潰瘍性大腸炎、家族性高コレステロール血症等の血液浄化療法患者の受入、腹膜透析併用の患者受入	付属病院腹膜透析外来からのクリニックへの患者受入を行った。

10. 呼吸ケアクリニック

基本方針	収支差額を安定的に確保
重点事項	取り組み内容
1 診療体制の強化	放射線技師（嘱託）を採用し、週5日勤務として受入患者数の増加を図った。

11. 健診医療センター

基本方針	大学付属の画像検査センターとして、画像診断における臨床、研究に寄与し、その特性を生かし、予防医療の充実のため健康診断、治験事業を行い、同時に事業収入の増加を図る
重点事項	取り組み内容
1 PET 検査数（臨床・健診）の増加を目指す	機器の更新延期により検査数はほぼ横ばいであった。

12. ワクチン療法研究施設

基本方針	免疫療法の研究とSSM（丸山ワクチン）有償治験の基幹施設としての業務を行う
重点事項	取り組み内容
1 他の診療施設との連携強化	質問・意見への丁寧な回答と最新知見の情報提供を実施
2 免疫療法としてのSSMの有用性の理解促進	メディアへの最新知見の情報提供（雑誌連載企画への協力）による広報活動
3 他の研究機関との連携強化	基礎研究へのサポート（ワクチン提供）の実施

1 3. 成田国際空港クリニック

基本方針	安定的な収入基盤を構築し、経常利益の黒字を維持する
重点事項	取り組み内容
1 外来診療以外での増収	成田市と人間ドック業務の委託契約を締結した。 クリニック内の受入可能枠を増加させ営業活動を強化した。

1 4. 先端医学研究所

基本方針	当研究所を構成する病態解析学、細胞生物学、遺伝子制御学、生体機能制御学、分子生物学、ゲノム医学の6部門において、 (1) 先端医学研究を推進し医学の発展に寄与し、国際レベルで認められる若手研究者の育成を図る (2) 開かれたラボとして広域な医学研究と臨床応用の研究開発をする
重点事項	取り組み内容
1 施設設備整備	(1) 細胞生物学部門の研究室の一部を改修し、研究室としての環境を整備した。 (2) 研究所移転に伴うR1室の廃止手続きを実施した。

1 5. 国際交流センター

基本方針	国際交流の窓口として日本医科大学に貢献
重点事項	取り組み内容
1 外国人留学生受入	(1) 国際交流会館及び別館の修繕 (2) 外国人留学生受入部署への教育経費支給
2 外国の大学との学術交流	(1) チェンマイ大学及び浙江警察学院への訪問 (2) チェンマイ大学一行が付属病院を見学
3 医学部学生の短期留学	海外留学CC や東南アジア医学研究会で 海外に留学した学生に助成金を支給
4 外国人留学生研究会の開催	2月16日開催、演題12題発表
5 外国人留学生に対する奨学金支給	各教室で受入れている外国人留学生に支給し生活を支援

16. 知的財産推進センター

基本方針	日本医科大学及び日本獣医生命科学大学で生まれた研究成果を、速やかに社会へ還元するために、両大学の研究支援、知的財産権の創出支援を行う。
重点事項	取り組み内容
1 大学等における産学官連携活動の推進に伴うリスクマネジメント体制の構築	学校法人日本医科大学知的財産戦略を平成 30 年 9 月 18 日に制定した。
2 *知的財産に関する啓発活動、知的財産の評価、維持活動、研究成果の実用化のための活動	(1) メールマガジン発行 12 回 (2) 発明等届出件数 30 件 出願件数 国内 13 件、国外 9 件 権利化件数 国内 2 件、国外 0 件 保有件数 国内 41 件、国外 18 件 (3) 外部機関の事業を活用してライセンス活動を行った。
3 産学官連携の推進	(1) 日本医科大学及び獣医生命科学大学の研究支援部署との連携し、研究に関する相談に対応。 (2) 産学連携大学実務者ミーティング、医学部合同情報交換会等の企画、参加。

17. ICT推進センター

基本方針	本法人でのICT最適化を強く意識し、かつ情報ガバナンスの強化を実現することを目的に、ICT推進委員会において策定した本法人全体での情報化の方針や戦略を実行する。
重点事項	取り組み内容
1 次期大学ICT3か年計画の策定	大学におけるICTの更なる活用促進に向け、二大学におけるシステム統一の観点も踏まえた3か年計画を立案した。
2 医療情報システムに関する中期計画の検討	四病院における電子カルテの更新・導入計画と、これに伴う部門システム更新に関して、特定年度にその費用が偏ることのないよう中期計画を策定した。
3 ICTに関わる所属間システムの統一検討	二大学並びに四病院のシステム統一を図るため、費用と運用の両面から統一業者の選定を進めた。

18. 研究統括センター

基本方針	1. 学校法人日本医科大学の研究活動方針の企画、立案 2. 学校法人日本医科大学の研究実施体制の構築 3. 学校法人日本医科大学の研究活動支援を行う
重点事項	取り組み内容
1 大学間連携の充実	(1) 首都圏 AR コンソーシアム (MARC)WG1-4 の活動に参加した。 また MARC の NPO 法人化の検討会メンバーとして参加した。 (2) 東北大学と連携を行った。
2 臨床研修講習会の充実	特定臨床研究に関する講習会、特定臨床研究の利益相反に関する講習会を開催した。
3 特定臨床研究審査委員会の運営	臨床研究審査委員会事務局として、特定臨床研究の審査関連業務を開始した。
4 不正防止委員会の事務の移管	6月より研究統括センターにおいて不正防止委員会事務局の活動を開始した。
5 業務確立に向けた部門拡充の検討	平成 31 年 4 月 1 日付で研究統括センター関連規程の改正を行った。